

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 (著書) 臨床栄養学総論 (サクセス管理栄養士・栄養士養成講座/全国栄養士養成施設協会、日本栄養士会監修)	共著	2022, Sep	第一出版	本書は管理栄養士養成のための学習書で、様々な疾患、病態の成因、進展、治癒に栄養学がどのように関わっているかを学ぶために必要な基礎知識についてまとめたものである。(総ページ数: 126 頁) 高橋加代子, 齋藤瑛介, 調所勝弘著 担当部分:「栄養ケアマネジメント」「栄養補給法」(担当ページ: pp. 31~77)
2 (学術論文) Defecation status, intestinal microbiota, and habitual diet are associated with the fecal bile acid composition: a cross-sectional study in community-dwelling young participants. 《筆頭論文》	共著	In press	European Journal of Nutrition In press	本研究では、地域在住の若年者 67 名を対象に、排便状況、腸内細菌叢、習慣的な食事が糞便中の BA 組成に及ぼす影響について横断的に調査した。糞便中の CA および CDCA 濃度が高いことは、特徴的な腸内細菌叢と関連していた。一方で、細胞毒性のある DCA と LCA が高いことは、動物性脂質の摂取量の増加、正常便の頻度の減少、不溶性繊維の摂取量の減少に関連していることを明らかにした。 Yosuke Saito , Toyoaki Sagae. 担当:概念化、方法論、調査、解析、執筆、監督
3 (学術論文) Saltiness and hedonic liking rating of miso soup associated with conscious salt reduction levels: a consumer acceptance study with gradual salt reduction. 《筆頭論文》	共著	2023, Feb.	Asian Journal of Food Research and Nutrition Vol. 2 52-63	味噌汁の塩分濃度を密かに段階的に下げることで、消費者はどのように受け止めるのかを調査した。塩味スコアは、減塩意識レベルの高いグループで高く、塩分濃度の減少に伴って減少した。一方、好みのスコアは、減塩意識レベルに応じて異なる減少パターンを示し、減塩の高い意識グループでは、その減少幅は小さかった。 Yosuke Saito , Nozomi Kobiyama, Masahiro Sagara. 担当:概念化、方法論、調査、分析、執筆、監督
4 (学術論文) Greater consumption of noodle is associated with higher serum phosphorus levels: a cross-sectional study on healthy participants. 《筆頭論文》	共著	2021, Jan.	Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition Vol. 68 pp. 78-85	若年健常者 109 名を対象とし、血清リン濃度と習慣的な食事性因子との関係性評価した。主食の消費パターンは、腎臓病患者のための食事療法および動脈硬化進行予防のための食事療法において重要であるという新たな知見が得られた。 Yosuke Saito , Masae Sakuma, Yuri Narishima, Takuya Yoshida, Hiromichi Kumagai, Hidekazu Arai. 担当:ヒト試験・実験・解析・執筆
5 (学術論文) Habitual confectionery intake is associated with serum phosphorus levels: A cross-sectional study on healthy subjects. 《筆頭論文》	共著	2019, Feb.	The Journal of Medical Investigation Vol. 66 pp. 134-140	若年健常者 109 名を対象とし、血清リン濃度と習慣的な食事性因子との関係性評価した。菓子類の摂取頻度は、腎疾患の重症化予防および動脈硬化進行予防のための食事療法として重要であるという新たな知見が得られた。 Yosuke Saito , Masae Sakuma, Yuri Narishima, Takuya Yoshida, Hiromichi Kumagai, Hidekazu Arai. 担当:ヒト試験・実験・解析・執筆
6 (発表) 糞便中胆汁酸組成と、食事、排便状況および腸内細菌叢との関係性	共著	2022, Jul.	第 26 回腸内細菌学会学術集会 於:タワーホール船堀(東京)	若年健常者 67 名を対象とした横断研究により、糞便中胆汁酸組成に及ぼす食事、排便状況、腸内細菌叢の影響を明らかにした。 齋藤瑛介 , 寒河江豊昭
7 (競争的資金) 腸管内胆汁酸代謝に影響を及ぼす食事・生活性因子の解明	研究代表者	2019~2023	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 19K201480001	本研究は、腸管内における胆汁酸代謝に影響を及ぼす生活・食事因子を明らかにすることを目的としており、脂質異常症、大腸癌および胆石症の予防と治療のための栄養指導法の構築を目指す。